

4 . 外部評価委員による評価

外部評価委員による評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により、教育委員会が点検及び評価を実施するにあたり、教育に関し学識を有するものの知見の活用を図ることが定められ、今年度は下記の方々より、この報告書に対する評価をいただきました。

外部評価委員（敬称略・50音順）

中道 厚子 【大阪大谷大学教授】

宮本 榮信 【元大阪府教育委員会南河内教育事務所長】

安田 宗義 【社会教育委員】

自己評価方法等について

河内長野市の教育活動全般にわたって、細かな視点で自己点検が行われている。ただ、自己点検の項目が詳しく示されているのは良いが、記載内容が重複する部分もあり、点検項目をもう少し整理するとより分かり易いものになるのではないかと考える。

教育の成果は、数値で表すことができない面もあるが、数値で評価できる項目は、可能な範囲で評価指標を設定することにより、自己評価がしやすくなると考える。

また、「今後の方向性」について、例年継続して実施する事業が多く、「取組継続」となる事業がほとんどであるものの、個々の具体的な取り組みについて、次年度以降も継続されているかどうか記載内容からは読み取りにくくなっているため、取り組み完了や取り組み廃止の項目も記載して、方向性をより明確にすると良いと思われる。

さらに、各取り組み内容についても、「継続している事業」「新規に取り組む事業」「本年度の重点事業」などに仕分けすると、整理しやすくなると考える。

自己点検の記載内容については、根拠となる数値等の記載がほとんど見受けられず、特に成果や課題については、図表などを活用しつつ、可能な限り具体的なデータも記載されることが望ましい。

また、教育に関する資料については、経年変化が把握しやすいようグラフや図などを効果的に活用し、教育委員会の活動については、時系列に活動を報告するだけでなく、前年度との比較や今後の課題等についても掲載するなどの検討をお願いしたい。

取り組みについて

学校教育（1．幼児の教育、2．学校での教育・学び）

1．幼児の教育

市立幼稚園が一園のみであるため、私立幼稚園との連携を通じて、市内全体へと取り組みを広げようとしていることを感じるが、市立幼稚園としての幼児教育の取り組みが見えにくいと感じる。

また、記述内容の多くが抽象的な表現となっており、具体的な取り組み内容が分かり易いよう、注意されたい。

しかしながら、小学校1年生の授業を保育者が実際に参観し、意見交換を行うなどの取り組みは、教育現場を踏まえた上で、相互理解を深めることにつながっていると考える。

ほかにも、公私立幼稚園と小学校との連携を図る上で、「幼・小連続カリキュラム」の取り組みは評価できると考える。平成27年4月から子ども子育て支援新制度がスタートするにあたり、これを発展させて、現行の保育所・園にも対応できる「保幼小連続プログラム」の研究を進め、保育所・園と幼稚園の保育に関する相互交流や職員の合同研修を設けるなど、幼児教育全般についての基本方針

が示されればより良いと考える。

2. 学校での教育・学び

それぞれの重点目標について、学校ごとに真摯に取り組まれていることは理解できるが、各校が「点」として存在しているように感じる。それぞれの成果が「点」ではなく「線」や「面（ネットワーク）」として広がっていくための方向付けが必要ではないかと考える。

取り組みがつながる先は、学校間だけではなく、学校と地域、学校と各種機関などの多様性も必要になると考える。新しい可能性を創造するためにも、視野を広げていただきたい。

多岐にわたる取り組み内容について、特記すべきと思われた点については下記のとおりである。

(1) 「確かな学力」の定着

・学力向上のために、保護者や地域と連携した取り組みが進められていることは評価できる。「家庭学習の手引き」や「学習規範の確立」などにより、子どもたちに自律的に学ぶ姿勢を定着させていると考える。

・学習を定着させる基礎は、豊かな言語能力を育てることにあると考える。国語力向上のための対策を講じることが望まれる。

・新しい教育機器を取り入れていくことの必要性は認識しているところであるが、タブレット型端末などを授業活動にどのような目的で活用していくかなどを慎重に検討していただきたい。教育の主体は教師と児童生徒であり、ICT 機器はその補助であることを再認識し、板書など、従来からの手法の活用とのバランスを取るよう望むところである。

(2) 豊かな情操と道徳心の定着

・豊かな人間性を育む取り組みとして、保護者・地域とともに道徳教育の推進を図っているのは、河内長野市の大きな特色であると考えられる。また、「道徳の時間」の充実に向けて、職員の研修も実施されていることは評価できると考える。

・取り組み内容にある、「人・社会・自然と関わる直接的な体験」活動は、大変ユニークな取り組みであるが、具体的な活動内容とその成果についての自己点検を求めたい。

(3) 健やかな身体づくりの充実

・「健康三原則」の推進による、児童生徒の生活習慣を見直すための取り組みは大事なことであり、引き続き取り組みを進められたい。また、そのためには家庭の一層の協力を得ることが望まれる。

・児童生徒の体力の現状について、調査結果の資料の掲載があれば良いと考える。

(4) 信頼される学校づくり

・学校運営に参加するコミュニティスクールの推進について、委員の研修会を開いたり、ヒアリングを実施するなど、コミュニティスクールの活性化を図っている取り組みは評価できる。

・コミュニティスクールの活動を通じて、学校の教育活動や、各校が抱える教育課題等を広く地域に伝え、「わたしたちが誇れる学校」という認識を喚起する一助になることを期待する。

(5) 豊かな未来を築く力をはぐくむ指導体制の充実

・平成 24、25 年度とも、教職員のキャリア教育に対する認識・理解の深化と、系統的・計画的なキャリア教育の推進が、課題として示されている。小中一貫校で実際に行われているキャリア教育システムを参考に検討してはどうかと考える。

(6) 危機管理の設備整備等の推進

・児童の登下校の安全管理の確保について、シルバー人材センターの活用を継続して進められたい。

・児童に対する犯罪や事故が多発している現在、学校の管理下だけではなく、日常生活の中での子

どもたちの安全対策についても、家庭や地域と連携しつつ、行政として対応も望まれていると考える。

(7) 学校教育を支える条件整備の推進

・学校図書館は、「読書支援センター」だけではなく、「学習情報センター」としても機能することが求められていると考える。購入図書を選書にあたっては、限られた予算の中で学校現場の学習に必要な図書資料を揃えるため、学習指導要領を熟知している教諭と学校図書館司書が連携して、学習に活用しやすい学校図書館となるよう、蔵書数だけではなく、その質も充実させていくべきであるとする。

生涯学習（ 3 . 青少年の学び、 4 . 成人の教育・学び）

3 . 青少年の教育・学び

記載内容に具体的な数字が挙げられており、理解しやすいものとなっていた。特記すべきと思われる点については下記のとおりである。

(1) 青少年の大人への健全な成長を支援する体制づくり

- ・青少年の健全育成について、関係諸団体との連携や、啓発活動が精力的に行われ、取り組みに対する成果が具体的に点検されていることを評価したい。
- ・引きこもり相談をNPO法人の専門相談員が担当することにより、専門的な知識を活用できることは評価できると考える。また、ひきこもりと発達障がいとの関連性等について、専門機関と研究を行うよう希望するものである。

(2) 子どもたちの課外活動の機会や場の提供

- ・「くろまるキッズ」のイベントとしてのインパクトは大きく、実際のイベントに際しても多くの親子の参加が見受けられた。市が学校教育以外にも放課後児童会の充実など、子どもたちに豊かな体験や学びを提供することは、働きながら子育てをする世代にとっては大きな魅力となる。河内長野市への転入者を増加させるためには、まちの魅力をPRし、独自のサービス体制の充実と工夫が求められる。
- ・子どもたちの課外活動を促進するための取り組みが幅広く行われており、郷土に学ぶ体験を伴った地域学習の効果は大きいと思われる。
- また、イベントの開催にあたり、小中学生が企画の段階から参画する期間を設けていることは、素晴らしい取り組みである。それぞれの取り組みをスムーズに展開するために、青少年のリーダーの養成と確保が望まれる。
- ・各中学校単位での行事の取り組みや、「夏休み子ども教室」「駅前子ども教室」など、子どもたちが参画できる機会が増えたことは評価できる。参加した子どもたちに、その楽しさを兄弟姉妹や他の友達に広めてもらえるよう、また、次代の指導者の育成につながる工夫が必要であると思われる。

4 . 成人の教育・学び

(1) 市民のニーズに応じた教育や学びの場への支援体制の充実

・ミュージックパークネットなどのユニークな取り組みは評価されるが、知名度を上げる努力が課題となっているものの、ホームページを確認すると、昨年度から更新がされていないようである。積極的な情報発信のためにも、更新作業等に努められたい。

(2) 市民のニーズに応じた教育や学びの場への支援体制の充実

・学びやんネットは、2008年の国の中央教育審議会の答申である「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」における循環の構築において、非常に重要な取り組みであると考えられるため、今後もその充実に取り組まれない。

・「くろまる塾」では、座学だけではなく、フィールドワークなどの取り組みや、理系講座の増加など、受講者や市民のニーズに応えていると思われる。また異世代交流にもなる大学連携講座だけではなく、高校連携講座などの新しい企画への努力は評価できると考える。

今後は、より幅広い年齢層の塾生の獲得と、市の活性化を図るため、20代から50代の市民が参加できるような実施日や時間帯の設定や、講座内容の検討をお願いしたい。

また、この取り組みを更なる知の循環へとつなげるため、学びの成果を次に学ぶ人への支援に活用する仕組みを開発する必要があると考える。

(3) 市民の健康保持、体力向上のためのスポーツの普及・啓発の推進

・スポーツ基本法を軸に、国を挙げてスポーツ振興施策が進められているが、資料からは体育施設の利用者数に減少がみられる。総合型地域スポーツクラブの活用状況を含め、現状として市民のどの世代がどのようなスポーツ活動を行っているのか把握した上で、減少の原因を分析し、PR・広報を含めた効果的な改善が必要ではないかと考える。

(4) 市立図書館や公立図書室の充実

・年末特別開館や開館時刻の繰り上げは、市民の図書館利用の大きな弾みになっていると同時に、カウンター業務の集約的運営による人件費の抑制等の工夫は評価できると考える。

・図書返却ポストの利点は、開館時間以外に手軽に返却できることであると考えられる。図書返却ポストの利点を最大限に引き出すため、各ポストの利用条件や利用率、また、市民へのアンケート等の結果も見ながら設置場所や市民への周知活動、PRについての検討をお願いしたい。

・図書館のサービスポイントは増やされているものの、まだ十分であるとは言えない。新たな利用を促進するためには、図書館から遠く、施設を利用したくてもしにくい市民の状況を把握するためにも、未利用者が在住するエリアの把握と分析が必要ではないかと考える。

・図書館が単に読書等だけではなく、市民がそれぞれの課題を把握するための情報も提供していることを広く市民に認識してもらうため、今後もさまざまな広報を活用し、講座を展開してもらいたい。

「河内長野市の教育の現状 平成25年度」全体について

「教育立市のまち河内長野」にふさわしく、多岐にわたる教育施策を広く深く推進されていると感じる。新しい教育の方向を求めて、英語教育の推進やICT機器の活用を進める一方で、伝統文化を守る郷土学習への取り組みなど、「教育の不易と流行」の調和の取れた教育活動の展開がなされており、それらの成果が表れてきていることが自己点検から伺える。

各担当部署においては、他の部局や機関と協力し、時代の変化や市民のニーズに応えるべく、他市では見られないような新しい取り組みも含め、工夫や努力を行っていることがよく分かり、一定の成果をあげていると思われる。しかし、それでも越えられない限界については、その原因を分析した上で、他の機関や市民団体、地域、ボランティア等との連携や、ネットワークの形成と循環の創造が重要になっていくと考える。

子どもたちの豊かな人間形成の一環として、地域のアイデンティティの形成を考慮する際、学校や行政側がそのツールとなるものを、直接作って提供してしまえば、市民や子どもたちは受け身になりがちになると思われる。

これからの行政は、大人と子どもの能動性や主体性をどのように育てていくかが問われ、市の教育目標の実現に、そのプロセスをどのように組み込めるかが問われていると考える。

学校での学びと地域の学びの融合を積極的に推進し、これにおいても「変える部分」と「変わらない部分」を見極め、何年先まで取り組みを継続するのかを明確にし、「教育立市」のまちとして、市民への学習の提供を期待するものである。